

榎下談

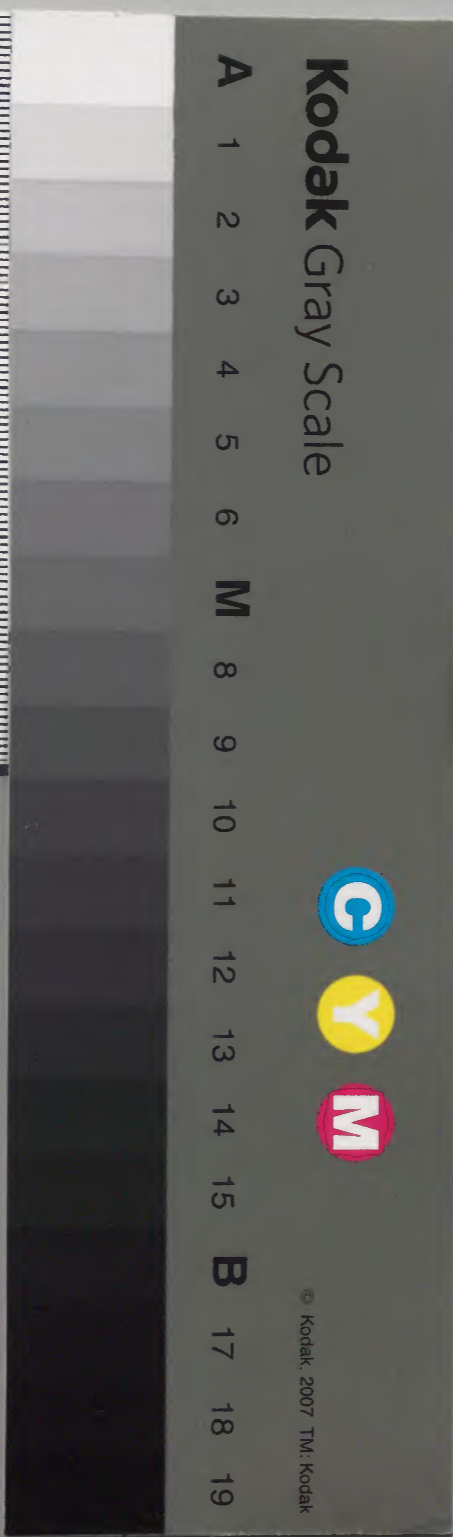
六

終

			二四二一六	和書門
六册	一四架	一四函	號類	

庫文閣内			
八二函	二四二一六	和書	
一四架	一四函	號類	

内閣文庫		
番號	和	24216
冊數	6	( 6 )
函號	182	341



克明館藏書

克明館  
文庫印

經濟録  
節評

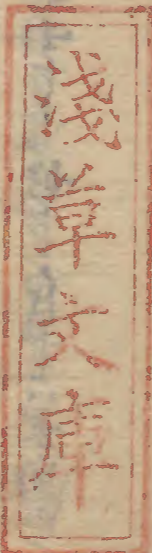
椽下談下巻下

石見

三好義英

著

○凡國の家ヲ治ルニ萬事又ニ於テ制教ヲ立テ先務トス  
先王ノ天下ヲ治メ玉ヘルニ孝ヲ本トス  
固ヨリ其謂ニ及ラズヤトモ我々ノ忠孝ト云フモハ  
其多ク物ヲ表服ノトモ  
其少クモ倫ヲ立テ皆孝ト本ヤトモ又本トシテ君トモトモ事トモ  
トモ又内トシテ親トモトモ外トシテ疎ノヲモハ是甚ク直ノ道トモ害トモ  
制メテ君臣ノ道トモ本トモ其道少シ徳少ク君臣ハ唯時ノ假物トモ  
天子ハ徳トモトモ其直ノ物トモトモ徳トモトモハ是を直ノ道ノ極トモ思フ  
物トモ其方ノトモ復高トモ積クモ道トモ其方ハ姑ク徳トモトモ  
ノ人ハ再從兄弟トモトモ他人ノ如ク思ヘリトモ  
其方トモ見ヘテ及長戸ノ風ノ作者トモ如徳トモトモ其方トモ既ク徳高トモ辨ヘ置ク



西ノ制教トモ孝トモ本トモハ  
其方トモ見ヘテ及長戸ノ風ノ作者トモ如徳トモトモ其方トモ既ク徳高トモ辨ヘ置ク







國にや。現に毛子の腹より。生るる子をいふ。其の子は又も。異姓人を生む。母  
に歸ち我をいふ。我姓の人をいふに況や又其血脉相續し。我先祖の血脉を  
絶するをいふ。其外孫を其子と認む。如何なる。鄭の血脉を。絶す  
や。理り有んや。君唯同姓同士をいふ。異姓は田女。夫婦を成し生る  
ん子。皆我家の血脉也。絶る理りも。周より来り。何處の家や。皆血脉  
と断絶をいふ。不可し。然るに周の制。同姓娶を禁めたる。血脉相  
續し右れ如く。只父の之を傳ふ。非に。而ち母も同く傳ふ。夫婦合  
等。相傳ふ也。然るに我傳國に於て。姓氏。血脉も血脉也。仍令  
我家より田子。いふ。唯女子あるをいふ。強ち同姓異姓。極ふと。言て  
何處の子を娶て。其子を取て。家名を相續せしむ。先祖の血脉を。相續  
爲すに。田子。婦を取て。女子は皆を取て。少相傳ふ所し。て  
して。昏姻を。取り。て。言ふ。是神隨の實理也。然るに。今人の傳ふの

説の如く。降く。君唯女子の。持らん者有。然るに。其人の同姓。又。養子。を  
可き田子の。いふ。人。時。吾女子を。他。嫁す。然るに。其。家。を。若  
死。し。て。左。に。右。に。いふ。我。家。を。我。代。傳。ふ。絶。續。を。いふ。然  
天命。耳。下。君。命。也。是。を。如何。て。人の。孝。子。孝。孫。多。ん。を。いふ。也。其。言  
も。節。也。天命。を。いふ。是。は。安。處。也。いふ。其。辭。の。是。を。感。ず。を。いふ。及。令  
皆。異。姓。の。人。を。いふ。其。の。妻。は。我。家。の。實。の。子。也。其。の。子。は。腹。也。又。田。子  
の。出。る。を。更。に。何。令。同。く。女子。の。生。る。を。いふ。先祖。の。血脉。を。傳  
ふ。は。理。り。に。於。て。田。子。は。異。姓。の。婦。と。迎。て。子。孫。の。生。を。いふ。  
何。の。異。姓。の。所。に。有。ん。や。及。て。子。を。物。も。唯。父。の。種。の。也。出。る  
物。を。いふ。然。る。理。り。に。可。り。也。子。の。故。来。下。生。を。いふ。又。母。は  
精。血。の。相。感。り。成。物。か。ら。ん。如何。て。姓。氏。の。異。同。を。推。し。血脉。の。續  
と。絶。を。いふ。可。り。也。君。子。田。女。の。子。人。を。いふ。絶。同。姓



及(ハ)之(ニ)明ノ世ニ可(ク)又(ラ)林(ノ)律(ニ)其(レ)刑(ヲ)出(セ)リ聖(人)ノ戒(ヲ)守(ラ)人倫  
ヲ重(ス)ル故(ニ) 今(ハ)國(ノ)是(レ)諸(者)ノ如(ク)は戎(狄)ノ風(ヲ)引(キ)来(リ)テ戎(狄)  
ノ相(續)也。故(人)ノ如(ク)は戎(狄)ノ大(ノ)梯(リ)也。可(ク)又(ク)只(レ)彼(ノ)以(テ)取(ル)人(ノ)戒(ト)  
守(ル)リ。ハ彼(ノ)子(ト)シテハ然(ル)更(ク)少(ク)可(ク)シ。我(レ)儆(ル)可(ク)シ。ハ有(ル)ンデ  
日本(ニ)モ古(ク)ハ此(ク)又(ク)每(ク)カ(リ)シニ。 御(國)ノ古(ク)ハ可(ク)又(ク)素(ノ)リシト何(カ)を以(テ)  
知(リ)多(ク)ヤ。 凡(ク)同(姓)ノ親(族)ハ從(屬)每(ク)ナリ如何(ニ)程(ニ)遠(ク)ナリモ皆(ク)大  
祖(ノ)子(孫)ニテ其(レ)骨(肉)ノ遺(ト)ナリ。 果(シ)テ世(ノ)後(ノ)如(ク)多(ク)ハ彼(ノ)鄭  
國(ノ)也。 魯(氏)ノ子(孫)ヲ養(フ)多(ク)ハ何(カ)大(祖)ノ子(孫)ナリ。 其(レ)骨(肉)ノ  
遺(ト)ナリ。 智(道)ノ有(ル)ヤ。 然(ル)ハ其(レ)外(孫)ハ亦(ク)鄭(ノ)女(ノ)生(所)ナリ。 之(レ)  
君(父)異(姓)ノ歸(ル)ト。 生(ル)多(ク)モ嫌(ル)親(ト)シ。 智(道)ヲ知(ル)ト。 異(姓)ノ婦(ト)  
娶(テ)生(ル)多(ク)ハ人(ト)亦(ク)同(ク)血(脈)斷(滅)セリ。 之(レ)為(リ)可(ク)シ。 然(ル)ハ血(脈)姓(氏)ハ男(ノ)  
如(ク)等(ク)保(守)ス。 但(シ)モ昔(ク)ハ元(和)ノ始(ト)シ。 神(祖)開(白)昭(實)ニシ高(儀)宗(ノ)

始(ト)シ。 十七(條)ヲ定(メ)ス。 其(レ)第(一)ノ義(子)ハ蟬(轉)陸(續)ノ可(ク)用(同)  
姓(婦)家(外)戚(義)家(叔)也。 古(今)絶(無)其(レ)例(ト)見(エ)多(ク)也。 故(ク)儒(者)ノ  
言(フ)所(ニ)更(ク)其(レ)由(ヲ)示(ス)ル。 之(レ)ハ禮(ノ)所(ニ)定(メ)ス。 君(同)姓(ノ)義(子)  
子(ト)ナリ。 時(ハ)天(帝)ノ安(知)シ。 家(名)滅(セ)ハ。 他(姓)ノ義(子)ヲ立(テ)  
ク。 此(ノ)言(ハ)一(ク)也。 凡(ク)義(子)ノ限(ル)婦(ト)同(姓)ト取(リ)テ。 祖(系)傳(寫)ス。 為(リ)  
可(ク)シ。 神(ノ)道(ハ)首(ク)多(ク)也。 止(ル)所(ニ)非(レ)ハ。 實(ト)異(姓)ト。 義(子)ハ  
一(ク)也。 左(傳)ニ。 如何(ニ)程(ニ)誠(敬)ヲ尽(シ)美(膳)ヲ献(メ)モ。 血(脈)ノ異(古)者(ノ)  
祭(リ)ラ。 鬼(神)饗(食)ス。 祭(ラ)郷(食)サ。 其(レ)神(靈)食(ヲ)得(ス)餘(ル)ナリ。 後  
十(キ)ヲ三(不)孝(ノ)第(一)トシ。 孟(子)ノ云(フ)ハ。 此(レ)儀(ト) 西(戎)國(ノ)鬼(神)也。 然(ル)レ  
癡(痴)也。 物(ト)有(ル)ニ。 為(ル)中(ノ)實(ト)也。 最(理)リ。 亦(ク)癡(痴)也。 然(ル)レ  
果(シ)テ世(ノ)後(ノ)如(ク)多(ク)ハ。 儒(者)ノ孔(子)ノ言(フ)所(ニ)多(ク)也。 更(ク)同(姓)ノ由(リ)也。  
非(レ)況(ヤ)ハ。 國(ノ)方(ク)也。 亦(ク)多(ク)也。 於(ク)多(ク)也。 固(ヨリ)聊(ノ)所(ニ)多(ク)也。 餘











御事のみ。是より如何なる由をも。推量する可なり。人の世れ  
たもの習は。男子の十は。一は。元服ありし。や。十三。一。始の録  
将肉親の之物を。取直らば。通じ。君は。十五。以下。も。人の。又。成。可。なり。由。を  
有。り。一。一。如。何。る。法。定。を。有。り。非。ず。世。に。宗。族。の。人。を。絶。つ。  
天。より。滅。却。し。る。由。を。と。り。天。命。り。宗。廟。を。可。く。さ。る。事。を。既。に。さ。る。如。く。  
一。一。非。復。ある。を。又。異。姓。の。天。子。を。令。り。せ。ば。人。の。習。は。て  
高。し。う。さ。る。を。見。て。辨。別。可。なり。 国。ラ。治。道。ハ。民。三。平。伍。ラ。先。務  
ト。云。 伍。法。の。上。ハ。民。間。ハ。皆。自。を。治。め。せ。し。 吾。國。を。人。情。を。た。り。よ  
同。ろ。可。り。也。然。傷。者。の。彼。々。法。の。隨。を。令。り。行。つ。て。又。思。ひ。て。さ。る。し。も  
其。實。地。に。申。し。同。じ。う。た。し。他。土。の。隣。伍。の。法。も。あ。ら。ま。も。伍。中。の。人  
階。級。を。さ。る。も。何。時。も。正。し。顯。る。物。の。有。ん。や。又。て。子。の。名。は。隠  
し。子。て。父。の。名。は。信。す。直。子。ま。其。中。に。有。し。さ。る。を。名。を。可。り。と。り。

但彼管仲は。是等の法をも行ひ得たりし。管仲固より其のあまじく  
故管仲の死より。後。六。萬。は。彼。在。世。の。如。し。非。り。人。而。其。人。を。少。く。故。ある。を  
ア。此。水。も。若。其。人。有。る。法。成。り。ん。必。降。伍。の。こ。ろ。に。な。り。也。每。類。の。人。を。あ。ま。じ  
し。明。ら。め。ん。也。ハ。豈。何。の。術。を。あ。ら。ま。ん。や。大。方。の。法。を。も。其。混。じ。の。術。は  
一。一。所。由。に。あ。り。一。一。一。時。其。人。の。智。量。を。以。て。定。め。し。る。法。を。も。其。人。の。  
行。つ。る。高。下。の。最。能。行。進。あり。し。や。引。ゆ。る。も。や。も。後。は。其。法。の。  
例。て。り。ひ。見。る。時。ハ。中。に。一。一。行。進。する。物。を。あ。る。を。や。既。に。傷。者。が  
此。書。作。り。し。萬。の。言。文。を。も。行。爲。爲。る。後。し。令。り。一。一。百。年。餘。を  
一。一。論。者。の。説。や。も。の。行。進。事。に。及。ぶ。れ。ど。也。世。に。許。不。金。太。平。の。法。を。も  
強。ち。一。一。嚴。格。ある。政。刑。を。も。制。せ。れ。ば。も。直。武。の。脚。威。徳。も。直。武。之。に。  
人。と。物。も。亦。太。平。の。化。に。浴。し。也。自。然。に。美。俗。を。も。多。可。り。物。を。も。や。世。に  
法。ハ。一。一。世。に。信。を。と。能。く。せ。し。也。世。に。大。聖。人。の。治。事。は。一。一。然。之。一。一。也。





嚴禁トド可放きしめて又佛者ト非にして新髪入道のまじき官は  
國の耻とし謂可き事也。此初山賣しし言る説に見る可し。  
古より百官ヲ立テ文武ノ職ヲ分ルテ大方ニ  
文武の職の分は  
故も政の行運難き。甚多しと云ふるは向度レ指すかしまは也。我政  
し武レ主とし。文自然ニ武ヲ備し。在り可き度上ノ既ニ兼へ  
九爵位ハ人ノ貴賤ヲ分ツヘキ為ルニ  
一命より九命迄あるは國の  
制也。左傳ニ世卿世采ト云ハレ  
彼トて主と徳を以て成るを  
彼トレ其謂也有るとし。我世禄世官多るとし。遂ハハ官制の鴻益はるべき  
有る天地造化の主神運の神代の大初の當時は神儀は議定の置はる  
正同中世郡縣は政進第ハ法行運るも心もまじしと後彼はわくは  
統る道行も。神制は得前れはし。大本の深き得れはる  
若くは我神地の心包を草する彼我秋の異風も。彼不可んや綴耶し

其器も非る人にも。是も其職を命じらるるとし。民を厚きは道也。我  
は此基なり。如何も。腐儒は見りし後の亦ハ洋知人。文武政は凡  
そ世禄ト云ハレ。文武藝術は後の世禄成願し其謂也。是も非  
は此れも其人の中。尸位素餐なるも。法の高きも非るも其人  
この不忠なるも。是も君飽食暖衣は父母の業成るも。君禄は奉  
さるも忘れも。是も顯出する罪人なり。如何も。是も我法にて  
其罪レし。此れは皆くも所ある。世文就も論る故も。更も。官廟  
ノ時。亦禄羊中。異國ニテ奴婢ト云ハ此方の民間ニテ諸代者  
凡民間ニテ人ノ家レ借ルニ  
當代の政ニ諸ノ士致はシテモ農ニ  
ノ十ニ  
農ノ事。是も。士主者ト非也。但一論者の畏とる  
彼士大夫し。本農夫也。出はへて。仕へを致せし。本の農夫  
也。今日。處士ニテ。明日。出テは。官スハ。國家ノ朝士ナリ



諸侯大夫トモ成へキ者ヲ  
此処の文は諸侯と大夫と成へ可きや  
聞ゆも是も諸侯と大夫との間との字脱る成へし彼等國よと立  
るも諸侯と大夫と下てし農夫と成る如きを云ふも非可し。  
道心者ハ儒下ハ事有る官ニ告ルニ寺社奉行出トモ  
僧尼令を  
極ゆる古も僧徒私事の許有て官に去り法服を去り俗形に成  
て俗姓名をとりて出若又衆僧の爲に徳等の度よ依て出時をも  
法服をも本よりよして其床席をも設け衣冠もあつた今世も罪定極  
るも非也ハ法服を脱ぎ去る成へし 國家官服の制ハ

右制度の下篇を辨ぬ

○凡經濟ノ道ハ國初ノ時ヨリ風俗頹敗シ上下困窮シヌ時節ニ真  
ノ經濟ニ非スニテ破此ト旧政ヲ變ハ大ニ不可成リ此時ニ當テハ  
大方國ヲ治ル政事ヲ止テ只毎為ノ道ヲ行カ好シ

論者の真凡經濟と云ふは予は新法を建行ひる民の視聽を草  
穎と云成可し然るも國初毎も真の經濟の道して天下の  
人民も皆先代の天下の人民もつた如何でも世も人情も別はる  
とをて得ん也是も礼も民を俱も改変せしむと得可き言也又  
得たし事とを合ち云り經濟ハ道と何くせせると其極教し  
る民を亦もるよ歸せらる即ち西戎の意也其餘の上ハ文飾のもの  
然るハ其民を多よ能家もつりて天下信服も居せ其國王の位  
稱も亦長し也今戎夷國として武家天下の總政を執せんと  
天朝を崇々尊之のりし歸ち治國の基とて又天下於太平の本武  
帝於盛勢の本も皆此一大本事も歸りて安堵して世も亂を  
勤もせし天下常も每更よし民ハ自然も安堵して世も亂を  
男も人ハ有るに無し強ちも民心を得ると得ることを備し



其成行終しして。捨置すて。無く為り而も無く為りし謂ふるは。方は如何に。  
解く命めいを。君きみ世よ説せつの如ごとく。多くも。無く為り而も無く為りし謂ふるは。方は如何に。  
解く命めいを。其の實じつハ。大たは。為す有りき。世よに。彼の仁にん義ぎ禮れい樂らく張ちやうて。天下てんか  
を。強じやう制せいせしむ。り。自然じぜんに。任まかせしむ。如ごとく。徳とくを行なは。し。無く  
為り而も無く為りし謂ふるは。且かつ老子らうしの。周しゅうの。衰すい末まつも。出いた。れ。其の説せつは。道だう  
ハ。堯ぎやう舜しん以上いじやうの。大た通たう治ちの。意いある。代だい衰すい世よに。彼の益えき無くき。非ひに。あ。や。云いふ。  
忘わう言げん強じやう説せつの。其の具ぐも。し。の。君きみ其の世よの。時ときの。推おし言げん云いふ。孔こう孟めい此こ説せつ也なり。道だう  
ハ。皆みな周しゅう末まつの。衰すい世よに。出いた。人ひとも。世よに。唯ただ衰すい世よに。彼の一いつ道だうの。と。見みか。  
老子らうしの。道だう。豈いかでか論ろん者しやが。云いふ。如ごとく。多くの。磨ま鏡きやうを。作さくする。其の本ほん成せい  
知ちる。強じやう説せつの。其の具ぐも。し。の。君きみ其の世よの。時ときの。推おし言げん云いふ。然しかて。魯ろ參さんの。治ち跡しきを。引ひ證てい  
あ。る。豈いかでか老子らうしを。不ふ可こ也なり。魯ろ參さんより。汲ひ黯あんが。治ち跡しき也なり。老子らうしの  
本ほん意いハ。可こふ。可こ也なり。文ぶん景けい二に主しゅの。治ち迹しき也なり。亦また見みる。可こき。と。無くき。非ひに。

老子等ノ道ニ似たり。天下国家ヲ治ル常道ハ有子凡四ノ末ニ成テ  
國家ニ種々ノ病患生ミタル時節ハ。天下國家を治る常道ハ  
ハ。伏犧神農黃帝之書。謂いふ三墳さんふん。項けい也なり。言い大道也。少  
昊顓頊高辛唐虞之書。謂いふ五典ごてん。常じやう也なり。言い常道也。と見え  
る。又また云いふ。若ごとく。然しかる。意いハ。非ひに。老子らうしの。説せつ所しよの。大た道だう治ちし  
て。亦また天下てんか國家こくがを。治ちむ。可こき。道だうハ。非ひに。一いつ也なり。常じやう也なり。一いつ也なり。道だうハ。一いつ也なり。  
其の本ほん何なにより。未み也なり。未み也なり。云いふ。未み也なり。知ちる。本ほんを。廢はいする。末まつを。泥ぬめ。る。弊へい  
見みる。其の目め無く為りの。治ちし。末まつ世よを。治ちし。刑けい也なり。亦また本ほん末まつの。違ちがへ。る。説せつ  
り。又また論ろん者しやが。世よに。在あり。程ほど也なり。既すでに。衰すい末まつの。世よに。一いつ也なり。事じを。止とめて。無く為りし

行可き世とん。今世各も。種々云々。皆益の論。後世も。か  
らば。論者何也や。自益為る家。處して。自耕て食ひ。水も飲まざ  
らば。中より。益弊の。説も。張出さる。世の勢也。争ひ人。と為  
る。不敵正其身。如正人何也。弗親弗親。庶民不信。と云め。と  
論者。及りて。其言。実践して。行かざらば。意口首尾。何ら。説も。多。所  
謂名実胸中も。時或。せらる。き。んや

右無為の篇を辨ぬ

○凡天下國家を治る人。易道ヲ知ラス。有ヘカラス。時トハ。此等ノ  
類ヲ時ト云。國家ヲ治ル者。唯今。如何ナル時ソト云。ラ。分別ノ其時。  
宜キ。政ヲ行フベシ。若時ヲ知ラス。ノ政ヲ施ス。縱。究。舜三王ノ道。ニテ。時ト  
觀。語ノハ。亦。テ。行レス。ニ。時ノ一字ヲ。易經ノ。眼目トスルハ。傷。ニ。  
是。是。恐。る。可。き。最上ノ。説。り。る。を。や。而。ち。易ノ。孔丘ノ。言。よ。天地。草

而四時成。湯武革命。順テ天。應テ人。草之時。大矣。今論者。し  
治世。政令。を。出。せ。可。き。於。就。テ。謂。き。也。唯。其。時。を。知。る。を。主。也。  
焉。る。湯武。が。革命。ノ。大。逆。也。道。也。革命。を。行。ふ。可。き。時。を。知。る。を。  
時。行。ひ。る。り。也。云。ん。也。下。意。な。死。也。堂。を。恐。可。き。ノ。主。極。ノ。説。を。  
ふ。ん。や。又。是。の。も。多。い。り。て。禮。運。も。禮。ハ。時。ヲ。為。大。順。次。一。之。體。  
次。一。之。稱。次。一。之。亮。校。一。之。奔。奔。校。為。湯。放。桀。武。王。伐。紂。時。也。も。多。い。  
云。る。を。見。る。可。し。亮。奔。奔。の。校。禪。也。湯武。の。放。殺。を。同。く。皆。是。等。也。  
し。時。を。せ。る。ハ。堂。我。道。に。於。て。彼。時。を。貴。へ。る。所。行。を。所。説。也。の。時。を。  
可。き。し。何。事。か。し。又。是。は。増。す。可。人。也。是。等。の。変。化。復。葛。を。見。る。も。  
亦。人。知。る。可。し。又。論。者。無。為。の。篇。も。衰。末。ハ。世。也。世。術。ハ。及。ぶ。り。也。  
云。ら。ば。夏。の。衰。末。ハ。世。也。湯。武。は。行。な。し。て。及。り。て。放。殺。此。政。を。行。て。  
天下。を。奪。り。し。如何。也。又。殷。の。衰。末。ハ。世。也。姫。昌。姫。奈。姫。且。姫

堯の教聖し。亦是成行の道無くして。及びて征伐を事とし。遂に無  
墓の運改行ひ。天下に視聽を新し。禮樂制度を改めり。ハ  
抑又何の由ぞや。ニツニ教トハ之。國家ノ治乱。無妄存之本皆  
自然ノ教アリ。人カノ才。所ニアラス。治トスル。國ハ難。治スルトモ。治リ乱トス  
ル。國ハ賢聖有テ。是ラ治テ乱シ。カラシムルヲ能ハス。

果して此説の如くハ。聖賢の智徳も其道も。世は世用の長物なれどもや  
然又自然の教と云ふハ。實も是無きトも申せし。神を道を得知れ。又  
真の神を道と知まば。其神祇の時。心も所為も。固より合  
てし。量知る可き限りに非ず。真の理りも。窺あるか。人の意も所  
觀る所も。始く自然の教なり。名付て人カノ及ざる所也。然して  
在る可き也。然も其実ハ。自然の教。天命も。非ず。唯善  
惡の神。運ハ。命の依る方。依て。治乱無妄存也。人の思ふ所常の

有りき。理りの終りハ。異なる。違へる。と。有る可き由も。知まハ。深き惑  
ハ。至下さる。ゆへし。夏殷周ノ三代ハ。三代ノ天下モ。一度ハ。ヒスト  
云フ。十ニ世ニ不死ノ人無キガ如シ。三代ハ。聖人ノ國家ナリ。故ニ。世ヲ傳ル  
久ク。後代ハ。徳カカリ。故ニ。是ト以テ。佛氏ノ四目ハ。合テ。説るハ。論  
者ハ。相應り。泥儒見。唯三代ノ天下。一度し。と。知て。我天  
下ノ。永世無窮。と。さる。と。知さる。又。豈。擔。板。漢。り。や。又。國  
帝。此。衰。病。の。目。ハ。所。會。也。一旦。然。説。の。如。く。也。此。世。ハ。合。し  
我。ハ。協。さ。る。説。也。我。天下。一度。建。一。神。代。り。し。永。世。無。窮。と。さ。る。と。ハ  
カ。リ。ヤ。也。然。其。天下。も。盛。衰。の。有。る。ハ。四。時。ハ。順。運。盛。衰。有。ま。す。と。  
四。時。ハ。遂。も。さ。る。時。ち。く。日。付。も。亦。食。有。れ。と。日。月。ハ。遂。も。光。明。と。失  
し。さ。る。如。し。又。徳。の。勝。者。を。以。て。傳。世。の。長。短。と。さ。る。夜。の。如。く。也。其。より  
以。來。よ。り。も。周。ハ。八百。七。十。餘。年。と。言。今。の。間。ハ。長。世。也。可。き。ハ。撰。述。也。

鬼き我皇天下し。固より天地を母躬の。皇統天下の道で。長短もしたるを  
固より成て奇きしとよはしむ。神代は程し且く置りん。波向橋原の  
大御代より今に至るは。二十五百年。皇統天下。奉然としし。傾き  
動うも。既よ波が。吾類の永世也と。固の八百数十年より。遂に  
亡ひも。三降し。神代は。大初の  
御創業も。姑く置りん。神武天皇は。神武の明德。波周祖より。子孫  
及る。餘慶也。方より。物成り。其長短。厚薄。勝劣。を  
譬へし。可し。凡そ生た病死も。数く一定ノ変せざる者く  
我皇統天下も。亦一定し。変せざる者し。惡神の御心成  
得ざる。逆成り。永生を。變し。死を。成り。能は  
本成り。通し。背り。成り。行き。非は  
却て大罪を得る。子孫絶滅も。可し。世と明め。多る人を。神教よ

達せし人も。可し。 陰陽トハ。繫辭傳ニ。 陰陽也云々ハ。本  
毎より。成り。成り。設り。多る名。如し。傳文。明し。生。兩儀ト謂て  
生。陰陽ト謂て。又明し。生。四象ト謂て。二陰二陽。四時を。生し。謂て  
然る。生。兩儀。陰陽ト云。四象。四時。則る。成り。各注家。の。私説  
あり。如し。如し。易。本。筮。本。也。後世。其。理。成。解。と  
し。主。易。易。の本。意。も。非。る。曲。禮。見。え。説。ト。筮。有  
先。聖。王。之。所。以。使。民。信。時。日。敬。鬼。神。畏。法。令。也。所。以。使。民。決。疑。  
疑。定。猶。與。也。故。曰。疑。而。筮。之。則。弗。非。也。日。而。行。事。則。決。之。  
を。成。る。是。古。儀。也。左。傳。每。是。以。吉。凶。也。是。心。成  
也。凡。ト。筮。の。法。也。惡。事。と。占。ひ。て。吉。兆。得。る。と。成。る。是。心。成  
也。論。也。一。の。一。也。然。也。其。説。の。中。ハ。草。の。卦。の。湯。武。を。引。き。  
論。也。類。の。文。改。是。有。る。又。評。遠。放。可。き。成。る。を。也。從。漢。葛

京師

克明館藏書

は言ふと此と合せ見ら可し。又天地日月水火男女の類も。陰陽の理  
を以て云ふも強説也。天は自天。月は自月。火は自火。女は自女なるの如く  
也。是等も姑く。天を陽と云ふ。水を陰と云ふ。陰陽を以て。假し  
て分る。然るともふまは。天は固より陰陽の理ありと  
は。実ハ神の真の道を知りし。天地陰陽の言は立て。是を  
以て。万事万物を總へて。奇偶の數を重て。そは。理りし以  
て。實ハ作り交あるを也。然るも。易の中より。天地の間より  
現在の事物は。概して。説く。事もの成成を考へ。量り。そは。概象し  
て。主ある一説あるのみ。又陰陽は。本来消長なる物故也。いつも等  
分り。牛角の如く。相對する。是し。事物の真廢  
盛衰也。消長の理。是陰陽は消長有る故也。

然るも。非し。其消長は。皆其事物の消長なるのみ。實ハ露、  
陰陽の理。相與する。然て。易道より。深く達せし。治身を  
得る。固より。易の所も。執政の人。大く。苦く。學ぶ。能  
ざる。先王の道。悉く。六経に在る。詩經は。人情を  
ある物。例の流る。説く。詩を學て。人情の可成を知り  
況や。今世の風俗。詩を誦て。如何して。知る。是を。論  
彙集を誦。若く。可し。書經を誦て。二帝三王の政を知り。治  
本を。西戎國に於て。然る。可し。故二帝三王の政の。大  
事也。如何して。即ち。是を。學べ。道の。大本固より。懸  
論者。毎。如何して。辨へ。又。彼。禮も。彼。如何して。我。神。禮も。天地の。常理也。







克明館藏書

克明館  
文庫印

